

施設長 各位

那覇市医師会  
会 長 山城千秋  
担当理事 宮城政剛



「新型コロナウイルス感染症」関連資料の提供について

平素より医師会事業へのご支援ご協力賜り感謝申し上げます。

那覇市保健所・仲宗根所長より「沖縄県疫学・統計解析委員会」からの報告事項をご提供いただきましたので下段にてご報告致します。

☆ 問合せ先(那覇市医師会 事務局:前泊・上原 / 電話 098-868-7579)

- .....記.....
- ◎ 沖縄県疫学・統計解析委員会から【現状】と【推定】と【解説】をいただきましたので、ご報告致します。(取扱注意でお願いいたします。) 【那覇市保健所 所長 仲宗根 正】

【現状】

沖縄県では、先週(4/12-4/18)の新規陽性者数は797人(前週792人)であり、ほぼ横ばいで推移しています。1週間移動平均では、116人であった4月12日をピークにして減少に転じた可能性があります。

沖縄本島における週あたりの実効再生産数(R)は0.98(95%CrI:0.91, 1.05)であり、前週の1.24から低下しています。県全体では増加しているにも関わらず、沖縄本島のRが1以下となったのは、後述のように宮古島で増加しているからです(図1)。

世代別では、20代が最多で163人(20%)と前週の210人よりも減少してきています。代わって壮年層が増加しており、さらに65歳以上の高齢者は99人(12%)と前週の51人と比して倍増しています。疫学調査が十分に行えなくなっていますが、限られた情報からは、高齢者の感染経路は家庭内が最多であると考えられます。

4月以降、高齢者施設や医療機関における集団感染は3件のみで、職員8人、患者・入所者12人と過去の流行と比しても、かなり抑えられていると言えます。早期の発見と対策が効果をあげているので、引き続きよろしくをお願いします。

地域別では、北部57人(前週32人)、中部212人(前週273人)、南部249人(前週235人)、那覇市223人(前週222人)、宮古44人(前週16人)、八重山10人(前週12人)でした。また、県外からの渡航者1人でした。明らかに中部が減少し、北部、とくに宮古島で増加しており、地域へと感染が拡散しはじめています。

なお、市町村別のトップ5は、那覇市223人(前週223人)、浦添市77人(前週77人)、沖縄市97人(前週69人)、宜野湾市68人(前週57人)、宮古島市44人(前週16人)でした。

先週の陽性者のうち、変異株(N501Y)を同定するPCR検査が実施されたのは146検体で、このうち38検体(26%)が陽性でした。先週の23%よりもやや増加しています。ただし、変異株の検査体制、とくに迅速性には課題があるため、このデータをもって評価することは困難です。

入院患者数は、先週末(4月18日)284人と前週末(4月11日)221人から急速に増加しています。また、中等症以上の患者数は192人(前週末127人)、気管挿管されている重症患者は11人(前週末5人)と重症化の傾向を認めています。

## 【推定】

沖縄県における流行は、今後、減少へと転ずる可能性があります。しかし、変異株への置き換わりも徐々に進んでいることから、今後の発生動向を推定することは困難です。

このまま実効再生産数（R）が1前後で推移するとすれば、今週（4/19-4/25）の新規陽性者数は780人前後となります。4月12日から実施されているまん延防止等重点措置が効果を発揮すれば、600人前後にまで低下する可能性があります。変異株による流行が始まれば、900人を超えて加速するかもしれません。

Rが1前後で推移したとしても、今週末の入院患者数は340人にまで急速に増加します。その場合、気管挿管等が行われる重症患者数は16人と見込まれます。流行が収束に向かったとしても、入院患者数が300人となるのは確実であり、変異株の流行となれば400人の可能性もありますが、これに即応するキャパシティはないので医療崩壊します。

## 【解説】

沖縄本島では、今後、減少に転ずる可能性があります。ただし、無症候者の割合が減少していることから、保健所による疫学調査が追いついていないことも考えられます。よって、このまま減少に転ずるか、あるいは変異株による再流行へと引き戻されるかは、今週の発生動向を見極める必要があります。

新規陽性者数が減少に転じたとしても、入院患者数は今月末まで増え続けます。今週末の入院患者数は340人にまで増加すると見込まれており、一部の地域では、コロナのみならず急性期医療が速やかに受けられなくなる可能性があります。地域医療は、かなり危機的な状態となります。

沖縄県では、公立、民間に関わらず、ほぼすべての急性期病院が新型コロナの入院治療に当たっています。つまり、これ以上、病床をこじ開ける余力がないのが実情です。緊急を要さない手術や入院治療の延期、一般診療の中止など、そろそろ既存の医療を減らしていくことが必要になってきました。

緊急を要さない限りは、できるだけ夜間や休日の救急受診を控えてください。かかりつけ医や近隣の診療所を日中に受診したり、市中薬局で薬剤師に相談して市販薬を購入したりすることで、救急医療への負荷が軽減されます。

もちろん、緊急性が高いと判断したときは、ためらわず救急車の要請をしてください。入院病床が不足していたとしても、重症度に応じたトリアージにより、救命のための処置を受けることができます。

また、高齢者、持病や肥満のある方など重症化リスクのある方が、コロナに感染したかもしれないと考えたときは、放置することなく受診してください。高熱が続いたり、息苦しきがある、周りからみて様子がおかしいなど、ただの風邪ではないと感じているときは、すぐに救急受診してください。

一方、風邪症状のみであれば、緊急に受診する必要はありません。できるだけ日中に、あらかじめ電話してから診療所などを受診するように協力してください。受診先が分からないときは、沖縄県コールセンター 098-866-2129（24時間対応）に電話をかけて、医療機関の紹介を受けてください。

高齢者や持病のある方は、コロナの予防だけでなく、飲酒や喫煙を控えるなど、医師の指導を守って生活習慣病の合併症予防を心掛けてください。転倒や交通事故などにより怪我をしないようにしてください。一般医療が縮小されるため、速やかな治療を受けられなくなる可能性があります。

現在も20代から30代の若者において、感染が広がっています。どうか、不特定多数との会食を控えてください。飲食店に限らず、ホームパーティでの集団感染も発生しています。どこ

であっても、食事は同居する家族など固定された親しい人に限定してください。そうすることで、医療従事者に力を貸してください。

コロナに限らず、本当に必要な医療の確保が難しくなっています。医療機関の負荷を軽減するよう、一人ひとり、最大限の協力をお願いします。

図 1 陽性者数の推移と実効再生産数の推定（沖縄本島）

